試錬ヲ經ナクテハナラヌ、

(ロ)「印度ノ心臓ベンガル」ト題シ「ベンガル洲」ノ行政區劃及英國東印度會社當時ヨリノ採取狀態並ニ産業主要都市等ヲ解説セリ

(ハ)「印度ノ獨立ト宗教鬪爭」ト題シ過去二〇〇年間印度ハ政治的ニ滅亡シテ居リ宗教哲學倫理道德ニ超越シテ居ルト冒頭、民族分布及宗教狀態並ニ「イスラム教」ノ侵入ト其ノ動キヲ説キ印度獨立ヲ救援セントスルニハ彼等ニ武力的援助ヲ與ヘルト共ニ指導シナクテハナラヌト結ベリ

四、獨ソ問題

世界戰爭ニ本質的情勢轉換ヲモタラスモノハ獨ソ戰ノ動向デアル、今ヤ東部戰線ニ夏ハ訪レツヽアリ即チ世界最大ノ陸軍國ガ全力ヲ盡シ一大死鬪ヲ展開セントスル戰機ハ熟シツヽアリ「ヒットラー」の神算や如何」ト戰線ノ動キヲ凝視シツヽアリ即チ

(イ)經濟情報懇談會

五月十二日帝國ホテルニ於テ時局懇談會開催、講師末次信正ハ講演中

獨ソ戦ニ言及獨逸ハ六月中旬頃ヨリ攻勢ニ轉スルモノト思料スルモ之ヲ有力化セシムル爲メニハ日本ガ西部亜細亜及印度洋上ニ不敗ノ態勢ヲ確保スルニアリト論ゼリ

(ロ)草鞋會

五月十六日、八王子市元横山町若松樓ニ於ケル懇談會ニ陸軍中將、香椎浩平ハ獨ソ夏期攻防戦ハ北阿戦局ニ影響スルコトナク獨軍ノ勝利ニ歸スルデアラウト論述セリ、

弍、興亜同盟ノ解消及アッツ島問題

五月中ニ於ケル特異事項トシテハ興亜同盟ノ發展的解消並ニアッツ島問題ナリ之ヲ摘記スレバ

(イ)興亜同盟ノ解消ニ就テ

興同當時ニ於ケル滿支側ノ本機關觀察狀況ヲ觀ルニ滿洲國協和會ニアリテハ亜細亜三十億民族ガ挺身團結シ必勝必成ノ信念ヲ堅持スル爲メニハ興亜理念ノ昂揚、興亜運動ノ積極的展開ニアリト同一歩調ニ進ミ

ツヽアリタリ

北支ニ於ケル新民會ニ在リテハ汪精衞ヲ主班トセル國民政府誕生後日本側ノ支援薄ギタリトノ觀點ヨリ前者ニ比シ積極性ヲ缺キ異同ノ目シテ日本政府ノ代辯者ナリト傍觀的態度ヲ採リツヽアリ

次ニ東亞聯盟中國總會ニ在リテハ東亞聯盟論ヲ強國ニ主張シ與同トノ思想的確執ヨリ其ノ軌ヲ一ニセザル憾アリタリ

來ル八月十六日、新京市ニ於ケル第三回日滿華各機關ノ動向極メテ微妙ナルモノアリ

翼贊會直屬ノ興亞總本部トシテ再出發後ニ於ケル革新陣營ノ動向ヲ觀ルニ

(1) 東亞聯盟關係者ハ

「現段階ニ對應スル眞ノ興亞運動ハ百ノ構想ヨリ一ツノ實踐ニアリ」

ト評シ

(2) 大日本赤誠會ニアリテハ

「彌縫策ヲ廢セ要ハ人間ト信念ノ問題ナリ」

ト觀シ更ニ大日本一新會關係者ニアリテハ從來ヨリ興同紙用論者ナレバ斯種運動ノ一元化ハ當然ナリト許シ一般ニ關心ヲ有セザル模樣ナリ

再生後ニ於ケル內部的動向トシテハ幹部間ノ實權掌握ヲ繞ル微妙ナル動向及退職手當金其ノ他ヲ繞ル所謂不平組ノ策動等アリテ其ノ動向觀察中ナリ

(ロ) アッツ島問題ニ就而

北邊アッツ島ニ山崎大佐以下ノ守備部隊壯烈ナル玉碎ニ依リ日本精神ヲ發揚セリトノ報發表サルヽヤ

皇道翼賛青年聯盟

やまとむすび本部

大日本赤誠會

大日本皇道會

農村文化研究會

大亜細亜建設社

等ノ主幹者ハ此ノ大本營發表コソ仇敵撃滅ヘノ警鐘デアリ吾等ハ此ノ天意ノ指揮刀ニ依リ戰友ノ屍ヲ超ヘテ征クベキデアリ、萬一士氣ヲ沮喪沈滞サセ或ハ米英側ノ謀略宣傳ニ躍リ悲觀論或ハ平和論ノ抬頭スルガ如キコトアレバ英靈ノ盡忠精神ヲ冒瀆スルモノナリト警戒シツヽアリ

日本文化宣揚會
對ソ同志會
元崇皇社

等ニアリテハ海軍部隊ノ應援アレバ鬼畜ノ米軍ヲ同島ヨリ撃退シ得タモノヲト希望的觀測ヲ有シ居ルモ現段階ニ於テハ具体的行動ナシ

六 五月中ニ於ケル、對外問題ヲ對照トセル一般的運動

(い)行動(集會及研究會)

維新運動者

五月二日城東區大島國民學校及龜戸國民學校ニ於テ米英撃滅講演會開

催無事散會セリ

日本健民養成所

五月二日本部ニ於テ座談會開催、白鳥敏夫ヨリ戰爭目的ハ猶太討滅デアルトノ講演ヲ聽取セリ

大日本同志會

五月三日本部ニ於テ理事會開催、松本會長ヨリ「北阿戰ノ近況」ヲ聽取散會セリ

日本國語會

五月六日國學院大學講堂ニ於テ講演會開催、辯士島田春雄、吉田茂等ハ大東亞共榮圏建設ノ根幹ヲ爲スモノハ日本語ノ現地普及ニアルト強調セリ

瑞穗倶樂部

五月八日本部ニ於テ定例理事會開催、松永材ヨリ南方視察談ヲ聽取セリ

皇民會

五月十三日丸ノ内電氣協會ニ於テ月例會開催、同盟社員蘆田英祥ヨリ「印度ニ於ケル英國ノ植民政策」ノ題下ニ講演ヲ聽取セリ

瑞穗倶樂部

五月十四日本部ニ於テ定例理事會開催、小林順一郎、入江種矩等一六名出席、ソ聯ノ近況ヲ中心ニ情報交換ヲ行ヘリ

瑞穗倶樂部

五月二十一日定例理事會開催、大井成元、井田磐楠等一五名出席「ビルマ方面ノ空襲狀況」ヲ中心ニ情報交換ヲナシタリ

舊幕政復古會

五月二十二日、江戸川區下小岩國民學校ニ於テ猶太撃滅講演會開催聽衆五〇名

大日本一新會

五月二十四日、麹町區平河町賓亭本店ニ吉田益三、影山正治等一三名出席陸軍司政長官小栗一雄ヨリ北ボルネオノ治安狀況及住民ノ對日感

情等ヲ聽取セリ

瑞穗倶樂部

五月二十八日事務所ニ於テ定例理事會開催、大井成元等二八名ハ北阿戰線ヲ中心トセル情報ノ交換ヲナシタリ

(2) 文書ニ依ル運動

東方同志會

機關紙「東大陸」ニ時言ト題シ米英ノ打算的「カサブランカ會談」ニ痛駁ヲ加ヘ

吾々ハ盟邦諸國トノ協同ヲ益々強化スベシト論ズ

南方圏研究會

「比律賓森林樹木ノ研究」「比律賓ノ人口」ト題スル研究資料各五〇〇部ヲ作成關係方面ニ發送セリ

やまとむすび本部

機關紙「維新大日本」五月號ニ佐々井一晁ハ中華民國指導者ヲ皇國經

済ニ参畫協力セシムルニハ過去ノ形式的理念ヲ飛躍的ニ轉換セヨト提言セリ

南方圏研究會

機關紙「南方情勢」第七九號ニ南方民族ノ生活文化ヲ紹介セリ

大東亜協會

機關紙「大東亜」第一二巻ニ松井石根ハ「速カニアジア主義ニ還レ」ト川崎、柴山ハ「思想戰ト大東亜ノ皇道化」ノ記事ヲ發表セリ

瑞穂倶楽部

機關紙「瑞穂」ニ「米英ノ戰後宣傳ニ就而」ノ題下ニ米英ノ戰後建設案ハ空虚ナリト痛駁ス

國際政經學會

機關紙「猶太研究」第四號ニ今次世界大戰ハ終局ニ於テ暴力革命ニ依リ各國ヲ解体シ其ノ支配權ヲ掌握セントスル猶太謀力ナリ、ト論破セリ

鶴鳴莊

機關紙「鶏鳴報」第七八號ニ大東亞戰爭ノ完遂ハ日滿華ニ於ケル四
思想ヲ一掃シ天皇歸一ノ根本思想ニ覺醒セル民族精神ノ融合ニ一
ト論ズ

東亞文化圈の會

機關紙「東亞文化圈」第二卷ニ「留學生指導對策カ確立セラレザル
當局者ノ怠慢ナリ」トノ大東亞相宛ノ進言書ヲ發表セリ

三、經濟問題ヲ繞ル動向

從來ニ於ケル革新陣營ノ主張スル經濟理念ヲ要約スレバ

一、現行統制經濟ハ左翼的思想ニ其ノ基調ヲ置クト爲シ批判論難スルモノ

(國粹的反動分子)

二、自由主義的利潤追求性ヲ否定シ強權ニ依リテ生産増強ヲ計レト主張シ現行ノ統制ハ財閥トノ抱含ニ依ルモノト攻撃スルモノ

(純理日本主義及左翼轉向分子)

三、現行統制經濟ハ行キ過キデアリ統制ハ之ヲ大綱ニ止メヨト主張スルモノ

(政治行動的分子)

ノ三傾向ニ其ノ概念ヲ把握シ得ルモノデアルカ一部急進分子ニ在リテハ大東亞戰爭ノ愈々苛烈ナル現段階ニ於テ吾國生産増強ノ客觀狀勢ハ寧口減退ノ一路ヲ辿リツヽアル事實ヲ指摘スルト共ニ一層ノ飛躍的増産ハ實ニ焦燗額ノ急ヲ要スル際依然タル人的・物的機構ヲ舊態ニ置キテ幹部ノ陣頭指揮ガ如何ニ叫バレテモ利潤追及株式配當ヲ受ケル現狀ニ於テハ何等生産増強

ノ効果ハ昂揚セズト爲シ
「今ヤ我國ノ經濟ハ初メテ壁ラシキ壁ニ打ツ突ツタ、此ノ壁ヲ破ラネバ國家眼前ノ危急ハ救ヒ得ナイ、今コソ從來ノ唯物的考ヘヲ一掃シ眞ノ現實面ニ測シタ徹底的方策ヲ取ラネバ遂ニ世界戰爭ノ落伍者トナルデアラウ、而シテ生産力ノ要素機構其モノハ物的條件ニ依ルニ非ズシテ實ニ人間其ノモノデアル、「御民われ」ノ精神ニ基調ヲ置イテ強力ニ實踐セザレバ到底解決ハ出來ナイ、即資本主義、自由主義、唯物的經濟觀念ヲ打破シ眞ノ皇道精神ニ基キ新ラシキ經濟機構ヲ樹立セネバナラヌ」
トノ觀點ヨリ所謂生産行程ノ隘路ニ横ハル癌的存在ノ抉剔排除並ニ生産増強ノ具体的政策ノ強力的運營ニ關シ演說會、研究會、文書等ニ於テ論議ヲ集中シ

一、中小商工業者ノ整理統合問題
二、農業食料問題
三、産業、勞働、物價、財政問題

等ヲ取上ゲ一途ニ必勝体制ノ確立ヲ目指シ政府ニ對シ積極的態度ニ出デツ、

然シ乍ラ戰時刑法實施以來本期間ニ於ケル言論文章ニ就テハ愼重ナル傾向ガ
見受ケラルノデアル。

今主ナル運動ヲ摘出スレバ

一、行動（演説會、研究會）

經濟情報懇話會

五月一日大東亞會館ニ於テ講演會ヲ開催、出席者五〇名

勝田貞次ヨリ

「必勝經濟トインフレ對策」

ト題シ次ノ如キ概要ノ講演ヲ聽取ス、

現在通貨ハ七〇億ト云ハレルガ公債ヲ合スルト六〇〇億トナル、之ガ市場ニ流出シテ行ケバ消費物資ノミ極度ニ増加シ民需物資ハ減少ノ一途ヲ辿ル此ノ原因ハ物價統制ニ在ルガ役人ハ此對策ヲ知ラヌト云々

東亞新秩序研究會

五月五日本部事務室ニ於テ經濟部研究會ヲ開催、出席者一五名、

横川四郎ヨリ
戰爭生活ト最低生活費
ト題スル講演アリ

聖戰文化奉公會
五月八日赤坂氷川國民學校ニ於テ生産增强、國民貯蓄必成大會ヲ開催
聽衆五〇〇名、辯士石井虎雄、津久井龍雄、小田俊與

大日本赤誠會大森一字塾
五月九日大森區入新井第二國民學校ニ於テ生産增强演說會開催、聽衆
一〇〇名
辯士橋本欣五郎

大日本皇道會
五月二十一日宣傳印刷物（ポスター）決戰下利潤第一主義ヲ止メヨ、
決戰下利潤主義ハ必勝体制ノ癌ダト題スモノ一、〇〇〇枚ヲ作成市內
各所ニ貼布セリ

東亞新秩序研究會

五月二十一日本部事務室ニ於テ連絡會議ヲ開催、出席者一五名
池田安夫ヨリ
中小商工業者ノ轉業ノ實相
ト題スル講演アリ

南方會

五月二十九日、三十日杉並桃井第一國民學校ニ於テ生産增强必成大會ヲ開催、聽衆一五〇名
辯士、服部實雄、有馬賴寧、匝瑳胤次、

二、文書（機關紙、パンフレット）

國策研究會

機關紙國策週報、三、〇〇〇部發行關係方面ニ發送セルカ、
物價問題ヲ主内容トシ其ノ根本的對策ニ付キ論評セリ

東亞協會

機關紙東亞時報六、〇〇〇部ヲ印刷發行關係方面ニ發送セルカ

造船報國ニ挺身セヨ

ト強調セリ

東方國研究會

比律賓森林樹木並ニ人口ト其過程ノ研究ト題スル研究資料五〇〇部ヲ作成關係方面ニ發送セリ、

やまとむすび

機關紙「維新大日本」五月號一、五〇〇部ヲ發行

1 漢民族ヲ皇道經濟ニ參畫協力セシムル爲メニハ一切ノ形式的理念ヲ飛躍的ニ轉換セシメンコトヲ中國指導者各位ニ進言スル、

2 戰爭完遂ノ爲メニハ法ノ許ス範圍ニ於テ自由主義討滅ノ鬪爭形態ヲ整備スル急務ヲ痛感スル　云々

ト論述セリ

祖國會

機關紙「祖國」五月號ニ於テ兵器戰ノ緊急資源ハ人的、物的資源ニ在リテ而カモ科學的ニ獲得利用スルコトガ急務ナルト共ニ新機構ノ確立

ガ必要デアル　云々

ト強調セリ

東亞聯盟同志會

機關紙東亞聯盟ニ於テ

都市ノ供木運動

ト題シ

戰爭遂行上森林伐採ハ當然ナルガ同時ニ植林政策ヲ眞劍ニ實施スルト共ニ主要都市ニ於ケル大邸宅、豪壯寺院ヲ解体シテ最少限度ニ簡素タラシメ其ノ餘剩木材ヲ供出セリ　云々

トノ主張ヲナセリ

大日本赤誠會

機關紙太陽大日本、第一六六號ニ

戰時緊急對策

ト題シ

戰勝確保ノ爲メニハ政策ガ戰爭ヲ追フ如キ現象ニ眩惑サレタル姑息的政策ヲ排シ逆ニ戰爭ガ政策ヲ追フ哲理ニ則レル究竟指向ノ徹底的政策ヲ急速ニ強行スルヲ要ス、斯ル政策ノ徹底ヲ期スル爲メニハ此ノ際戰力增強ニ關係ナキ者ハ全部之ヲ廢止若クハ中止シ眞ノ焦點的集中主義ヲ採ルト共ニ日本的獨創ニ依ル戰力造出ノ根源ヲ衝テ戰力ノ飛躍的增強ヲ達成セザル可カラズ、而シテ之ガ根源ハ勞力、技術、資源ニシテ其ノ根本ハ人ニ在リ、人ノ生產ヲ無限大ナラシムルモノハ感激ナリ、生產者ニ物心一如ノ感激ヲ與フルコトコソ戰時政治ノ要諦ナリ
ト論ジ具体的政策トシテ
食料增產、中小商工業、金融財政ノ各對策ヲ揭載セリ

山崎經濟研究所長　山崎晴純談

支那ニ於ケル經濟界ノ現狀ハ目下物價ノ暴騰ニ依リ相當困ツテ居ル、支那大陸ノ經濟事情ハ必然吾國ニモ波及ス可ク其ノ將來ニ於ケル見透シハ一寸困難デアツテ政府モ余程愼重ナル對策ヲ取ラネバナラヌト考ヘル

瑞穂倶楽部　　吉松正勝談

吾國現在ノ統制經濟ガ兎ニ角曲リナリニモ運行サレテ居ルノハ官僚ノ功績ト云ハネバナラヌ、然レ夫レニモ不拘國民ノ不許ヲ買フノハ運用ノ面ニ於テ涙ガ無イカラデアル　云々

四、里見問題ヲ繞ル運動

本運動ニ關シテハ曩ニ述ベタルガ如ク皇國運動同盟（伊藤力甫）・傳劍莊（寺田稻次郎）・皇道經濟硏究所（神保幸三郎）・勤皇烈士顯彰聯合會（柳町茂道）等所謂純正維新派ガ共同布陣シテ芝區田村町東京虎ノ門ビル内里見問題事務所ナルモノヲ設ケコレガ糺彈運動ノ具體的目標トシテ

。里見著書の發禁處分
。博士號の褫奪
。刑事訴追の要求
。立命館大學教授の罷免

等ヲ表面的旗幟トナシ橋田文相ノ責任追及ヲ内藏シテ熾烈ナル運動ヲ展開シテ來タノデアルガ其ノ後客月六日里見岸雄ノ博士論文「國體法の研究」ノ削除處分ヲ見且内閣改造ニ依ル橋田文相ノ掛冠トナルヤ一部強硬派ニアリテハ一應奏功セリトシテ稍軟化ノ態度ヲ示スモノモアリタルガ

其ノ推進力タル寺田稻次郎、御町茂道、伊藤力甫等ノ主流ニアリテハ簡學並ニ國體思想明徴ノ見地ヨリ飽ク迄里見思想ヲ根絶セシムルノ要アリトシテ強硬態度ヲ堅持シ寺田稻次郎外二名ノ代表者文部省ヲ訪問シテ該問題ニ關スル當局ノ所信ヲ打診スルト共ニ、立命館大學ニ對シ

○里見教授の罷免

○學位取下の申請

○社會的責任の陳謝

等ヲ提示シテ強硬ニ里見思想撲滅ノ鋭鋒ヲ集中シタノデアル

然ルニ立命館大學ニ於テハ之ヨリ先文部當局其他四圍ノ情勢ヲ念慮シテ本月九日里見教授ヲ促シ自發的ナル休職願ノ提出トナリ里見教授ノ講義ハ七月後ハ爲サヾル事ト成リタル爲メ其ノ反對目標ノ大半ハ此處ニ達セラレタルノミナラズ、右里見問題事務所内ニ於テ本月中旬頃ヨリ其ノ中核體タル皇國運動同盟ニ内訌ヲ生ジ主幹者伊藤力甫ト總務石山正夫ノ二派ニ分レテ同志相抗爭スルニ至リ石山派ニアリテハ本月十五日日比谷松本樓ニ於テ理事者會合ノ上伊藤力甫ノ除名處分ヲ決定セルガ

一方伊藤力甫ニ在リテハ一部有志ノ理事會ニ於ケル議決ニハ承服シ得ズトナシ寺田稻次郎、內田正巳等ノ同志ト共ニ目下事務所移轉ヲ畫策奔走中ニシテ今ヤ里見問題ノ追擊戰ハ一時足踏ミノ感ガアルノデアル、而シテ里見思想ノ糺彈運動ハ昔日ノ俤今ヤ無ク漸次沈靜的傾向ヲ辿リツヽアルガ伊藤力甫一派ニアリテハ近ク同盟內ニ「國體明徵委員會」ナルモノヲ設ケ里見問題ノミナラズ廣ク國體不明徵ノ事實ヲ取上ゲ活潑ナル運動ニ出デントスルモノヽ如クニシテ目下其ノ陣容整備中ナルヲ以テ今後ト雖モ情勢ノ推移如何ニ依リテハ向一段ノ活況ヲ見ルニハ非ザルヤト認メラルル現況ニアル

一方里見側ニ在リテハ目著「國體法の研究」ノ削除處分ニ遭遇內心憤懣ノ如キモ其ノ後四圍ノ狀勢自己ニ不利ナルヲ察知シテ本月九日立命館大學ニ休職願ヲ提出スルト共ニ明治天皇御製ノ謹講ノ他各種講演會等ノ講師依頼ヲモ拒否シテ專ラ謹愼的態度ニ出デ、念願タル「國體法」ノ大成ヲ期シテ之ガ執筆ニ熱中シ只管時流ノ推移ヲ觀望中ノ如キ現況ニアル

次ニ兩者ノ具體的ナル運動狀況ヲ摘記シヤウ

一、里見問題事務所

(1) 五月十日事務所本部ニ實行委員會ヲ開催シ里見著書「國體法の研究」ノ削除處分後ニ於ケル運動方針ニ就キ協議ヲナシ當局訪問ノ件外一件ヲ決定シタ

(2) 五月十七日右決議ニ基キ代表者寺田稻次郎・伊藤力甫・山口平輝ノ以上三名ハ文部省ヲ訪問
專門教育局監理課長剣木亨弘ニ面接ノ上

1 大學總長並に教授の任免

2 博士號認可の經緯

3 講義内容監査の有無

等ニ就キ當局ノ所信ヲ聽取シタ

(3) 同日寺田・伊藤ノ兩名ハ京都ニ出張立命館大學ヲ訪問ノ上里見教授ノ罷免方ニ關シ最後的勸告ヲ爲シタルガ既ニ休職處分ノ事實ヲ聽取
次イデ歸途
大阪市西淀川區海老江上通

皇道翼賛青年道場

（理事長　樋口喜徳）

一、里見岸雄側

(1) 五月五日立命館大學ニ於ケル國體憲法学講義ノ爲メ京都滯在中、五月九日付ニテ同學總長宛休職願ヲ提出シタ

(2) 其他關係官廳ヲ訪問福田狂二其ノ他反對運動ニ對スル當局ノ善處方ヲ依頼セルモノヽ如シ

五、英靈公葬ヲ繞ル運動

本運動ハ發ニ述ベタルガ如ク祭政一致翼賛協會側ニ在リテハ英靈ノ公葬ハ總テ皇國ノ祀典タル神式ニ準據スベキニ不拘陸海軍ヲ始メ侍殿防衛ノ重責ニ任スル諸官公署及官民相互ガ皇國ノ國体觀、人生觀ヲ異ニスル佛教様式ニ依リ之レヲ慰靈シ居ルガ之等ハ惟神大道ト宗教トヲ混同シ且國本末ノ儀禮ヲ紊リ神靈タルノ禮遇ヲ貌視スルモノニシテ斷ジテ大御心ニ副ハザルモノナリトノ信念ヲ堅持シ今次議會ヘノ請願並關係官廳ニ對スル陳情等之レガ趣旨貫徹ノ爲猛運動ヲ續ケ來リ各方面ニ一大反響ヲ呼ビ起シツツアルガ反面佛教各派ノ聯合團體タル大日本佛教會ハ本運動ニ對處シ反對運動ヲ展開スル等本問題ハ神佛兩派ノ對立抗爭化サントシ延テハ宗教維新國教問題ニ迄發展セントスルノ傾向アルガ更ニ本運動ニ關シテハ國家主義陣營ノ大日本一新會、大東塾、大日本勤皇會等ニ於テモ強硬ナル主張ヲ見ツツアリ其推移嚴重注視中ナルガ五月中ニ於ケル主ナル運動ヲ摘記スレバ

一、祭政一致翼賛協會

表面特異行動無キモ同會理事杉本政七ハ時々皇典考究所、大日本神祇會等連絡ノ下ニ之レガ趣旨貫徹ノ妥協議會画策中ナリ

二、大日本一新會

全國大會ニ於テ戰死者公葬ヲ神式ニ統一促進スベキ運動方針ヲ決定セルガ五月二十五日瀧野川區役所公會堂ニ於テ米英撃滅世界一新演説會開催シ

英靈ノ公葬ハ神式ニ據ルベキデアリ佛式ヲ以テ行フ樣デハ英魂ハ十萬億土ニ追ヒ遣ラレ國家ノ根本ヲ破壞スルニ至ル云々ノ强硬主張ヲ見タリ

三、大日本勤皇會

機關紙報國新報第一、〇三四號及同五、六號ニ「佛敎公葬ノ怪」ト題シ

釋迦ハ涅槃覺知ノ爲全力ヲ傾注シ死後ヤ葬儀ニ關シテハ全ク顧慮シナカツタ然ルニ現在ノ僧侶ハ淺間敷モ死後ヲ捏造宣傳シ葬儀ヲ唯一ノ本

務トシテルカ沸教ニハ崇祖ノ観念無シ従テ英霊公葬ハ國家ノ公儀公禮ヲ以テ擧行スベキハ餘リニモ明白デアル云々ノ論旨ヲ連載セリ

四、維新公論社

維新公論五月號ニ「再ビ公葬問題ニ就テ」ト題シ無宗教公葬反對ノ大日本佛教會ノ請願ヲ採擇セル貴衆兩院議員ノ約半數ハ皇國体精神ノ存スル所ヲ誤リタルモノナリト斷ジ更ニ該請願書ノ所論ヲ徹底的ニ駁撃セル後公葬ハ當然國禮國式ニ據ルベキ旨強調セリ

五、皇道日報社

機關紙皇道日報紙上ニ「公葬問題ノ批判」並ニ「公葬問題ノ考察」ト題シ英靈公葬ハ惟神道ニ依リ擧行スベキ旨掲載セリ

六、

一、急進分子ノ動向

大東亜戰爭ノ進展ニ伴フ國内ニ於ケル決戰体制ノ確立ヲ要望シ相當活潑ナル動向ヲ示シタル維新陣營內急進分子ハ其後体制ノ確立ニ焦慮シツツモ時局ノ重壓下ニ意ノ如クナラズ專ラ時局ノ進展ヲ凝視シ監視的態度ヲ持シツツアルガ其ノ主ナル動向ハ

(一)ひもろぎ塾關係

(1)盟主井上日召ニ在リテハ維新翼賛ノ確固不拔ノ信念ノ下ニ大東亜戰ノ進展ト時局ノ推移ヲ凝視シ引續キ對時局的問題ニ就テハ專ラ監視的態度ヲ持シツツアルト共ニ各地方散在ノひもろぎ塾ヲ中心トシテ地方青年ノ結集ヲ策シツツアリ

四月末ヨリ五月初旬ニ於テ和歌山縣下ニ於テ開催セラレタル座談會並男健會道場落成式等ニ出席シ同志ノ親睦ヲ圖ルト共ニ更ニ本月十日ヨリ同十八日ノ間

群馬縣下前橋市ニ旅行シ木村寅太郎代議士等ヲ中心トシテ結成セラレタル「ひもろぎ會」、
主催ノ講習會、座談會等ニ出席シ地方青年ノ指導育成ニ奔走シツツアリ
尚又白石會下ノ幹部ニ於テモ各地所在ノ塾中心ニ青年ノ養成魂ノ結集ヲ圖リ益々其ノ結ビツ固メツ青年ノ指導鍊成ニ盡瘁シツツアリ

(2) 前田虎雄ニ在リテハ千葉縣市川市所在ノ「ひもろぎ道場ヲ主体トシテ更ニ新潟、青森縣下等ヲ中心ニ惟神ノ大道ニ基ク魂ノ結ビヲ眼目トシテ青年層ノ獲得ヲ策シ五月初旬ニ於テハ井上日召等ト共ニ和歌山縣下ニ旅行シ地方青年ノ指導ニ努メツツ在リ

(二) 勤皇まことむすび運動關係

神武創業ノむすびノ精神ニ基キ所謂銃後ノ近衞兵團的青年ノ結集ヲ目的トシ引續キ

まとむすび

維新公論

等ノ機關紙ヲ唯一ノ武器トシテ文書戰ニ備ヘ而シテ

維新公論第七巻第五號

ニ於テハ

大和民族大修錬の秋

再び公葬問題に就て

等ヲ登載シ宗敎維新ノ確立及ユダヤ的勢力ノ擊滅等ヲ强調シテ反政府的ナル態度ヲ示シ更ニ安田銕之助其他中堅幹部ハ各地區ニ於テ直接指導ヲ爲ス等强化ヲ策シツヽアリ

而シテ最高指導者天野辰夫ハ曩ニ自己執筆ノ不穩文書事件關係ニヨリ起訴セラレ之レガ第一回公判ハ

維新公論發行人　芥川治郎

同　主幹者　市毛康隆

等ノ關係者ト共ニ五月十九日東京區裁判所ニ於テ開廷ノ豫定ニ在リタルモ延期セラルルニ至レリ

中央事務局ニ於ケル中堅幹部

片岡　殿　　中村　武

ノ兩名ハ平沼事件關係ニヨリ岡山地方事務局員西山直等ト共ニ東京拘置所ニ入所中ニ在リタルガ五月三日東京刑事地方裁判所第三號法廷ニ於テ準備公判ヲ開廷ノ後五月七日三名共同志

松永　材　　鹿子木員信

ノ兩名ヲ責任者トシテ責付出所シ其後東京刑事地方裁判所

石田和外判事

係リニテ審理ヲ續行五月末日ヲ以テ片岡、中村等ノ

思想運動ノ推移過程

國体觀

等ノ陳述ヲ終了シタルガ片岡、中村ノ兩名ハ公判廷ニ於テ孰レモ

英米的自由主義思想ノ擊滅

等ヲ强調論述シ茨城縣下在住ノ同志

ユダヤ思想ノ排擊

黒江直光　西山五郎

森川長孝　尾崎海治

等ハ交互ニ上京シ公判傍聽ヲ爲シ精神的ナル援助ヲ爲シツツアリ

尙四月頃ヨリまことむすび中央事務局同志間ニ安田主幹ノ排擊問題ガ起リ紛爭中ナリシガ安田ノ退役ニ依リ問題ハ一應落着スル如クデアル

(三)大東塾

塾長影山正治ハ獄ニ於イテ健康充分ナラズ專ラ靜養ニ留意シ靜岡縣下伊東町所在ノ別宅ニ旅行スル等靜養ニ努メ時局問題ニ關シテハ默殺的態度ヲ以テ臨ミ專ラ維新奉行ノ靑年養成ヲ眼目トシ

塾監　長谷川幸男

其他ノ幹部又良ク塾長ヲ輔ケテ塾ノ擴大强化ヲ策シツツアリ

五月十一日ヨリ影山塾長ハ野村辰雄、坪川滿等ノ塾員ヲ伴ヒ奈良縣下大和五條町其他ニ於ケル新國學協會關係主催ノ講演會並歷代皇陵ノ巡拜等ヲ爲シ五月二十四日歸京更ニ五月二十五日塾內ニ於テ

楠　公　祭

五月三十日物故同志松浦勇夫ノ

一　週　年　祭

等ヲ執行シ維新精神ノ顯揚ニ努メ

一方塾長影山正治ノ主宰スル文化團体「新國學協會」ト緊密ナル連絡ヲ保持シ

五月三十日上野公園內韻松亭ニ於テ

ひむがし歌の會

ヲ開催シ同志獲得ニ努力

尚又文書戰トシテ機關紙「大孝」ニ依ル外

七、五事件公判記錄

增補大西鄉の精神

等ヲ發刊スル等專ヲ塾ノ强化ヲ策シツツアリ

㈣本間憲一郎關係

大東亞戰爭下國內体制ノ確立ハ先ズ社會戰線ニ對スル施策ノ完璧ヲ期スルニ在リトシテ社會機構特ニ下部組織ニ對スル缺陷ヲ補フ趣旨ノ下ニ幾ニ情報機關「大東亞協會」ヲ創立セル本間憲一郎ハ其ノ後益々一縣勤皇運動ニ生力ヲ注グト共ニ大東亞協會ノ組織擴大ヲ圖リ

五月初旬ヨリ

栃木縣下今市町

晃山塾主催講演會

茨城縣下田水山村

波山塾開塾式

長野縣下須坂町

翼贊壯年團主催講演會

等ニ講師トシテ出席シ協會設立ノ宣傳ニ努メ更ニ

ニ際シテハ

常務理事　望月　茂

〃　田中　登

ノ兩名講師トシテ出席スル等事ヲ協會設立ノ趣旨ヲ宣傳シ更ニ常時茨城縣下ニ往復シ組織ノ擴大並民間情報ノ蒐集等ニ奔走ス

(五) 事件關係

(1) 岩崎久彌男爵邸ノ不穩事件判決

本籍　千葉縣安房郡豐田村大字加茂

住居　不定　無職

加茂靜コト　鈴木仲治

當四十五年

ハ岩崎久彌男爵邸侵入事件ニヨリ檢擧取調ノ結果殺人豫備並戰時住居侵入罪トシテ起訴收容セラルルニ至リ五月五日東京區裁判所ニ於テ之レガ第一回公判ヲ開廷セラレ審理中ノ處

五月十九日　懲役三年

ヲ求刑セラレ

五月二十六日　懲役二年

ノ判決言渡シヲ受ケ直チニ服罪セリ

(2) 言論出版集會結社等臨時取締法違反事件

住所　澁谷區氷川町三六

大日本錦旗會會長

本多葵堂

ハ本年二月二十一日下谷區練塀町國民學校ニテ開催セラレタル同地在郷軍人主催ノ講演會ニ於テ時局講演ヲ爲セルガ其ノ論旨不穩ノ廉アリトシテ所轄上野署ニ於テ檢擧取締ノ結果

言論出版集會結社等臨時取締法違反

トシテ起訴（三月十五日身柄釋放）セラレ五月十七日略式ニ依リ

罰金　二〇〇圓

ニ處セラレ服罪セリ

(8) 平沼事件公判ハ前記ノ通リ

七、集會方面ヨリ見タル革新陣營ノ動向

言論集會結社等臨時取締法ノ制定並ニ戰時刑事特別法ノ改正等々ハ必然的ニ革新陣營ノ運動部面ヲ規制爲メニ若干潜行的傾向ヲ帶ビ表面ノ活動概シテ微温消極的ナルモノアリ

就中各種集會等ニアリテハ一、二ノ特殊國体ヲ除キ其ノ論旨從來ノ批判的態度ヲ捨テ戰力增强米英擊滅等主トシテ啓蒙指導的傾向ニナルハ注目スベキ事象ニ屬ス

試ミニ五月中ニ於ケル主要國体ノ演說會開催狀況ヲ列擧セバ次ノ如シ

一、大日本皇道會

毎日曜午后七時ヨリ同十時ノ間本部道場ニ定例日曜講演會ヲ開催

聽衆　一〇〇名乃至一五〇名

辯士　赤尾　敏　　鷲尾政治

　　　夏秋龜一　　宝　蛟水

等

各辯士共時局ノ重大性ヲ説キ敵愾心ノ昂揚ニ努ム

二、維新運動社

(1) 五月二日 自午后七時 至〃十時

於 大島第二國民學校

聽衆 約六〇名

辯士 渡邊春山 鈴木克人

三輪寛 磯部靜雄

(2) 〃 自午后七時五十分 至〃十時十五分

於 龜戸第一國民學校

聽衆 約三〇名

辯士 市川喜一郎 磯部靜雄

渡邊春山 三輪寛

永富以德

等

生產增强米英擊滅ヲ絶叫ス

(3)

五月二十七日 自午后七時五十分 至〃十時十五分

於　砂町第一國民學校

聽　衆　約六〇名

辯士　町田正吾　本多葵堂

ニメヤ陰謀ノ正体ヲ衝キ注意ヲ喚起ス

三、天關打開期成會

五月八日 自午后七時三十分 至〃十時十五分

於　尾久國民學校

聽　衆　約二五〇名

辯　士　鈴木乙巳　佐藤富一郎

春日井秀雄　清水專二

松本君平　井上一次

時局ニ對處スベキ國民ノ覺悟ヲ縷々説述ス

四 聖戰文化奉公會

五月八日 自午后七時 至〃十時三十分

於 赤坂氷川國民學校

聽衆 約五〇〇名

辯士 石井虎雄 津久井龍雄

小田俊與 鈴木義雄

生產增强國民貯蓄ノ必成ヲ强調ス

五 日本國語會

五月六日 自午后一時四十五分 至〃五時十五分

於 國學院大學講堂

聽衆 約一〇〇〇名

辯士 島田春雄 山田孝雄

吉田茂 小林撻治

野村重臣

大東亞共榮圈建設ノ根幹ハ日本語ノ現地普及ニアリト國語教育ノ徹底

ヲ强調ス

六、勤皇烈士顯彰聯合會

(1) 五月十七日 自午后七時 至〃九時十五分

於 下谷公會堂

聽衆 約二〇〇名

辯士 竹浪正義 藤井甚太郎

(2) 五月二十五日 自午前九時三十分 至〃十一時五十分

於 南千住大橋映畫館

聽衆 約三五〇名

辯士 柳町茂道 富田喜作

勤皇烈士ヲ賞讃勤皇精神ノ昂揚ヲ强調ス

七、大日本一新會

五月二十五日 自午后六時三十分 至〃九時四十分

於瀧野川公會堂

聽衆約三〇〇名

辯士 登石清 吉田益三

河上利治 船生利重

影山正治

米英撃滅世界一新ヲ強調ス

八 大日本赤誠會

五月九日 自午后七時 至〃十時三十分

於 大森新井第二國民學校

聽衆約一、〇〇〇名

辯士 橋本欣五郎 遠藤新三

等

生産増強ノ緊要ナル所以ヲ強調ス

九 國粹同盟

(1) 五月十五日 自午后六時四十分 至〃九時四十分

於　豊島公會堂

聽衆　約七五〇名

辯士　笹川良一　片桐勝留

吉松正勝

(2) 五月十六日　自午后六時四十分 至〃九時五十分

於　淀橋公會堂

聽衆　約六〇〇名

辯士　笹川良一　吉松正勝

新田貫平　佐藤榮志

本集會ハ國内体制ノ強化ヲ標榜セルモ諸般ノ事情ヲ綜合スルニ若干選擧準備ト認ムベキ點アリ尙吉松正勝翼賛會ヲ誹謗中止ヲ命ゼラレタルハ留意スベキ事項タリ

一〇　草莽會

五月十六日　自午后一時四十分 至〃五時

於　八王子第一國民學校
聽　衆　約四五〇名
辯　士　香椎浩平
「必勝の秘訣物心一如」ト題シ生産增强ヲ强調ス

二、大正大學校友會
五月十九日　自午后一時四十分　至〃五時
於　淺草公會堂
佛教青年傳道會館
聽　衆　約二〇〇名
辯　士　眞下俊雄　外　七名
傳教大師ノ事跡ヲ説キ戰時下國民ノ覺醒ヲ促ス

三、神政復古會
五月二十二日　自午后七時三十分　至〃十時三十分
於　小岩國民學校
聽　衆　約五〇名

辯士本多葵堂

猶太思想ヲ解剖警告ス

一三 南方會

(1) 五月二十九日 自午后七時十分 至〃十時

於 阿佐ケ谷第一國民學校

聽衆 約一五〇名

辯士 有馬頼寧 匝瑳胤次

(2) 五月三十日 自午后一時三十分 至〃五時三十分

喜多村定

於 杉並桃井第三國民學校

聽衆 約六五名

辯士 有馬頼寧 金原賢之助

戰力增强國內体制ノ强化ヲ强調ス

一四 明治大學海洋研究部

五月二十五日　自午后一時二十分　至〃五時四十分

於明治大學記念館

聽衆　約九五〇名

辯士　武富邦彦

緊迫セル內外ノ諸情勢ヲ説述敵愾心ノ昂揚ヲ希求ス

一五、帝國新報社

五月二十七日　自午后六時三十分　至〃九時四十五分

於青山會館

聽衆　約五〇〇名

辯士　池田弘　高橋三吉

三武錠史

日本海戰當時ヲ偲ビ戰力增强敵愾心ノ昂揚ヲ絶叫ス

一六、皇民懇談會

五月二十九日　自午后五時三十分　至〃九時

於軍人會館

聽衆約四五名

辯士　荒木貞夫

戰局ト皇道精神ヲ縷述ス

八、結社取扱狀況

結社存續願アリタル團體中目下進達中ニシテ許可指令ノ交付ナキ團體ハ

(1)

アジア青年社　祖國會　黒龍會

南方會　南進勤皇會　聖戰同盟

東亞思想戰研究所　青年亞細亞同盟　大東亞黎明會

啓明社　南總會　興南協會

南方國研究會　興亞倶樂部　國防研究會

明德會　奉仕經濟團　大日本護國青年會

日本南方協會　日本經綸學盟　戰時對策研究會

ニシテ

檢討中ノモノ

(2)

東亞聯盟協會　精神科學研究所　日本力會

至誠會　時務研究會　無名士倶樂部

大日本協會　政教社　東亞協會
農村文化研究會　辛未同志會　東亞新秩序研究會
拓南協會　大日本同志會　對支同志會
維新青年前衛隊　大孝彌榮會　國際日本協會
スメラ學塾　日本精神道場維新塾　不二倶樂部
東南亞細亞民族同盟　神祇官復興促進聯盟　江東明倫會
皇政協力會　皇道婦人聯合會　皇道宣揚新聞雑誌聯盟
士風會　關東國粹會　亞細亞民族問題研究所
海洋國策研究會　時局研究會　大日本國粹會東京本部
興亞運動同志會　帝大肅正期成同盟　大東亞共榮圈研究會
勤皇挺身隊　日本國體學會　維新大道宣揚會
大日本忠正會　淺草明倫會

ニシテ

新規出願中ノモノニシテ許可指令ナキモノハ

世界[illegible]研究會　安山　貫　　神代文化研究會　小寺小次郎

[illegible]奉[illegible]隊　橋本榮三郎　　八紘會　松井七夫

神道思想顯揚會　野田禮史　　大日本皇國文化協會　岩倉具榮

[illegible]弘塾　矢澤　明　　松左塾　向井定利

神訓大東亞協會　田村健一

デアル

1

MENTION ~~#~~ (2164) M. Fujii

List of members of right wing parties.

Ishin-koron-sha

Ishin-domei

Bammin-yokusan-taisei-kakuritsu-renmei

Hakko-kai

Nippon-kokutai-gakukai

Toa-bunkadan-no-kai

Toa-remmei-doshikai

Toho-doshi-kai

Maggokoro-Dojo

Kyu-rikken-yosei-kai

Kakumei-so

Taika-kai

Daitoa-kyokai

Daito-juku

Taish-doshi-kai

Daitoa-seinen-domei

Dainippon-kodokai

Dainippon-Sekisei-kai (Hashimoto Kingoro) (Tatekawa Yoshitsugu)

Dainippon-kinno-doshi-kai

Dainippon-kinno-kai

Daiazia-kensetsu-sha

Dainippon-isshin-kai
Dainippon-doshi-kai
Sokuten-juku
Yamatomusubi
Kodosha
Kokusai-hankyo-remmei (International anti-communists party. Hiranuma Kiichiro)
Kodo-yokusan-seinen-domei
Kojiki-kenkyu-kai
Kokoku-gakudan
Kokoku-doshi-kai (Shiratori Toshio)
Kokusui-domei (Shiratori Toshio)
Kodo-kai
Kokuryu-kai
Kodo-sekiseiji-kenkyujo
Komin-jissen-kyokai (Toyama Hidezo)
Komin-dan
Kokutai-yogo-rengo-kai (Hiranuma Kiichiro)
Moto-kokusaku-sha
Tenkan-dakai-kisei-kai
Tenko-kai (Toyama Hidezo)
Aikoku-sha (Hiranuma Kiichiro)

3

Iga-ryo ryo
Ajia-seinen-sha
Akebono-sha
Saisei-icchi-yokusan-kyokai
Kinno-makotomusubi-chuo-jimukyoku
Kinno-resshi-kensho-rengo-kai
Moto-kyuko-kai
Mizuho-kurabu
Siken-ryo
Himorogi-juku
Seisen-kantetsu-domei
Seisen-meicho-kokumin-undo-sohombu
Seishin-kagaku-kenkyojo

極秘

昭和十八年六月現在

主要團体畧名簿

31

特高第二課

目次（イロハ順）

維新公論社 一
維新同盟 二
萬民翼賛体制確立聯盟 三
八光會 四
日本國体學會 五
東亜文化圏の會 六
東亜聯盟同志會 七
東方同志會 八
道心道場 一〇
旧立憲養正會 一一
鬪鷄莊 一二
大化會 一三
大東亜協會 一四
大東塾 一五
對支同志會 一六

大東亜青年同盟 一七
大日本皇道會 一八
大日本赤誠會 一九
大日本勤皇同志會 二〇
大日本勤皇會 二一
大亜細亜建設社 二二
大日本一新會 二三
大日本同志會 二四
則天塾 二五
やまとむすび本部 二六
皇道社 二七
國際反共聯盟 二八
皇道翼賛青年聯盟 二九
古事記研究會 三〇
皇國禦團 三一
皇國同志會 三二
國粋同盟 三三
皇道會 三四

黒龍會　三五
皇道世界政治研究所　三六
皇民実践協議會　三七
皇民團　三八
國体擁護聯合會　三九
元國策社　四〇
天關打開期成會　四一
天行會　四二
愛國社　四三
華牙寮　四四
アジア青年社　四五
あけぼの社　四六
祭政一致翼賛協會　四七
[illegible]　四八
勤皇烈士顕彰聯合會　四九
元影行社　五〇
瑞穂倶楽部　五一

至軒寮　五二
ひもろぎ塾　五三
聖戦貫徹同盟　五四
聖戦明徴國民運動總本部　五五
精神科學研究所　五六

維新公論社

事務所	赤坂區青山南町三ノ二四
創立年月日	昭和十二年八月十四日
電話番號	青山(36)六四一

背後又ハ實際指導者	天野辰夫

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
	五二	中野區高根町四
片岡駿	四〇	赤坂區青山南町三ノ二四
奥戸足百	四〇	世田谷區野沢町二ノ一七三
中村武	三二	澁谷區原宿一ノ一三八 西三千春方
芥川治郎	三五	芝區愛宕町一ノ二 勤皇まことむすび中央事務局
市毛康隆	五六	澁谷區氷川町三

主ナル會員又ハ隊員名	班別
森川長孝	二
黒江直光	
西山五郎	
西三千春	
福田博治	
酒井保	
下戸静雄	
青戸弥生	
三原勝	
廣江宏文	
吉武繁利	
湯之恵正行	

維新同盟

事務所	足立區千住元町一四 竹本方
電話番號	足立 三五〇一
創立年月日	昭和十五年二月十一日
背後又ハ實際指導者	竹本信一 遠藤友四郎

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
竹本信一	五三	足立區千住元町一四
森川吉次	三九	本所區堅川町一ノ二三 鈴木方
高橋幾之助	五一	埼玉縣草加吉住町一七
野村欣司	二九	足立區上沼町九七一
深田吟次郎	五〇	世田谷區成城町一二九
滿尾叶	五一	京橋區銀座二丁目 皆川ビル
坂田幸太郎	四六	足立區千住壽町六二

主ナル會員又ハ隊員名: 深澤源造 新妻力丸 久米川玄太郎 小菅肇 植松源吾

班別: 三

萬民翼賛体制確立聯盟

事務所	芝區西久保明舟町二四
創立年月日	昭和五年四月
電話番號	芝(43)一九〇六
背後又ハ實際指導者	内田正巳

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
内田正巳	四八	芝區西久保明舟町二四
田上宇平	四二	神田區神保町一ノ六二
西澤龍	四九	芝區新橋七ノ一〇
長井律	五四	赤坂區丹後町一〇四
児玉信夫	五二	江戸川區小岩町五ノ一八〇
若月晋	四〇	北多摩郡國分寺町三四二
蟹江茂男	三九	本郷區森川町一一二
久保田傳次郎	三六	麻布區新廣尾町三ノ八三

主ナル會員又ハ隊員名	岡田儀三郎、市田啓次郎、池田得司、塚田三郎
班別	三

八光會

事務所	芝區高輪南町二八
創立年月日	昭和十六年五月五日
電話番号	高輪(44)五六二六
背後又ハ實際指導者	山本英輔

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
山本英輔	六八	品川區北品川三ノ三二二
石毛英三郎	六一	茨城縣東茨城郡酒門村大字若宮八八八
猪野毛利榮	五八	小石川區茗荷谷町五七
下村榮二	五四	本所區江東橋四ノ一八
上村琢磨	六〇	鎌倉市片瀬町片瀬四二五
大井靜雄	五七	目黒區駒場九一九
伊藤辰男	四三	芝區高輪南町二八
内田幸人	四五	京橋區槇町三ノ三
宇田國榮	四一	目黒區上目黒八ノ六六九

三十九 會員又ハ隊員名	佐々木甫　福井清　坂田清太郎　田方正三
班別	二

梅津勘兵衛

七二

本郷区湯島天神二ノ一三

日本國体學會

事務所	府下北多摩郡武蔵野町一二六八
創立年月日	昭和十一年二月十一日
電話番號	境 三

背後又ハ實際指導者

里見岸雄

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
里見岸雄	四八	北多摩郡武蔵野町關前一二六八
高見正雄		名古屋市千種區都通一ノ六
小野誠淳		福島縣東白河郡棚倉町
金子多命	四三	世田谷區北沢五ノ七二四
阿部好宏	六二	本郷區根津西須賀町一五
久能木宇兵衛	四五	日本橋區室町二ノ一
南河淳二郎	五五	荒川區日暮里二ノ一
岩永芳男	四二	杉並區西荻窪一ノ一七〇
粕谷光織	三六	目黒區宮前町一五二七

主ナル會員又ハ隊員名

中浦末喜
石原莞爾
江藤夏雄
中栄末純
末廣巖太郎
津久井竜雄
竹内俊一
塩澤幸一
佐々弘雄
山川智應

班別	
	七

東亜文化圏の會

事務所	神田区神保町一ノ三 壽ビル
創立年月日	昭和十七年一月十九日
電話番號	神田(25)八四二

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
藤村又彦	三五	渋谷区千駄ヶ谷二ノ四二四
鈴木善一	四〇	世田谷区深澤町二ノ五八
窪田早視	二九	淀橋区西大久保一ノ四八六 清氣荘

背後又ハ實際指導者	
會員又ハ隊員名	三十九
班別	二

東亜聯盟同志會

事務所	麻布區櫻田町八
創立年月日	昭和十四年十月八日
電話番號	赤坂 三三二〇
背後又ハ實際指導者	石原莞爾

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
和田勁	四九	麻布區櫻田町八 東亜聯盟同志會内
木村武雄	四二	王子區志茂町一ノ一〇八五
原玉重	四八	麻布區森元町二ノ二七
杉浦晴男	三四	中野區鷺宮一ノ一三八
高木清壽	四一	目黒區上目黒八ノ二八四
牛島辰熊	四〇	赤坂區台町二〇
石原六郎	三九	麻布區櫻田町八 東亜聯盟同志會内

主ナル會員又ハ隊員名	守屋勝男　細田綱吉　牧野喜七　中村梅吉　中村高一　原定良　林阜三　戸枝鎬太郎　太田雅市　菊地良一　相田春雄
班別	六

東方同志會

事務所	赤坂區溜池町三〇
創立年月日	昭和十一年三月十六日
電話番号	赤坂 二〇〇七

背後又ハ實際指導者

中野正剛
安達謙藏
三宅雄次郎
徳富猪一郎
中村良三

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
中野正剛	五八	澁谷區代々木本町八〇八
三田村武夫	四五	王子區山渕町二〇九
進藤一馬	四〇	澁谷區代々木本町八〇八
佐藤吉熊	四四	立川市南幸町二六五八
稲村隆一	四六	府下吉祥寺町五〇ノ七
永田正義	三三	世田谷區成城町八四
関山茂太郎	三四	深川區平井町三ノ二
長谷川峻	三二	淀橋區西大久保町三ノ四三
本領信治郎	四一	中野區高根町一〇

主ナル會員又ハ隊員名

守田近三
吉田實
長谷川光太郎
渡邊忠雄
臼井荘一
當山清
鈴木正吾
岡野俊雄
的場茂
齋藤兼松
臼木豊壽
植田重義
鈴木尚虎
古澤斐
井渕清行
草野一郎平
石田宥全

班別

佐藤又藏
田中義男
安田万太郎
永田政次郎
下見直人
田邊　納
新石眞藏
長尾　有
小村峯次
歳　智奨
勝田穂榮
上口　勇
田中敏平
國分菜三郎
安藤鶴治
美川一出鷹
柿島源一
石崎幸銀
長谷川綠郎
川口義利
黒川　榮
中島七太郎

田中知男
淡沼勝治
渡邊忠雄
星野太一
榎本義邦
山口倉吉
尾崎　明
安藤一已
大野哲心
佐藤信平
清水愛司
小寺栄吉
堀越梅昇
磯貝寅祐
澤田安治
後藤正身
山田鶴治
渡邊勝亀
歳田正則

直心道場

事務所	世田谷區世田谷一ノ九七八
創立年月日	昭和九年一月一日
電話番號	世田谷 四〇五七

背後又ハ實際指導者

大森有聲
頭山滿
小林順一郎
荒木貞夫
山本英輔
滝正雄

中心人物又ハ幹部	年齡	住所
道場主 西郷隆秀	二七	澁谷區原宿一ノ八六
道場長 大森有聲	四〇	世田谷區世田谷一ノ九七八
塾生長 中澤直通	三〇	世田谷區世田谷一ノ九七八

主ナル會員又ハ隊員名

髙橋信一
秋山孫孝
松井次郎
古川誠
岩田望
林勝美
渡邊政吉
山下正二
横山孝
中川裕
林貞四郎
三浦延治
赤星輝也
伊藤茂夫
中村政衛

班別	五

旧立憲養正會

事務所	府下北多摩郡神代村金子三一三三
創立年月日	昭和十七年三月十七日不許可
電話番號	

背後又ハ實際指導者	田中澤二	
中心人物又ハ幹部	年齢	住所
田中澤二	五七	北多摩郡神代村金子三一三三
岡村益喜	四六	澁谷區代々木初台五六四
中島博	四二	赤坂區青山北町五ノ四一
前田舜岳	五三	世田谷區北澤三ノ一〇一六
野々村寛止	四九	深川區高橋一ノ六
魚利重	四二	澁谷區代々木西原町九四五
加藤喜孝	四〇	荏原區小山町二〇六
中川作太郎	六一	澁谷區山谷町三六一
小野寺栄治	四五	澁谷區代々木初台六三二

主ナル會員又ハ隊員名	
	鬼崎與一郎 石井金一 伊藤喜蔵 辻兼一 矢部賢三 島津一郎 上村博 矢作秀夫
班別	七

鶴鳴莊

事務所	麻布區櫻木町七五
創立年月日	昭和八年一月十八日
電話番號	赤坂 一八四六
首領又ハ實際指導者	槢建甫
中心人物又ハ幹部	槢建甫
年齡	三六
住所	大森區入新井五ノ二七二
主ナル會員又ハ隊員名	槢建克夫 前川常夫 持尾利久 槢建富士夫 山口政光 小林秀男 稲垣弘太郎（大阪陸軍刑務所收容中） 村上芳英（出征中） 實野敏男（出征中）
班別	二

大化會

事務所	芝區田村町五ノ一六
創立年月日	昭和七年十月十五日
電話番號	芝 一一一一 一一一四

背後又ハ實際指導者
岩田富美夫

中心人物又ハ幹部	年齡	住所
岩田富美夫	五三	豊島區椎名町五ノ二二六五
佐々木四郎	三九	小石川區窪町六
岩崎藤吉	三九	北京特務機關
宮武實	四〇	四谷區愛住町一三柏栄荘
吉田彦太郎	三五	目黒區柿ノ木坂二三〇
渡邊正義	三〇	上海ブロードウェイ一七號 マンションホテル四階一四號

主ナル會員又ハ隊員名	班別
河原哲也	
赤星猛	
松田義一	
佐藤直次	
石上久一	二
吉本慶正	
鈴木健治	

大東亜協會

事務所	淀橋區角筈一ノ七八八 松岡第二ビル三階
創立年月日	昭和十八年三月一日
電話番號	四谷 八三四三

主幹又ハ實際指導者　本間憲一郎

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
本間憲一郎	五四	淀橋區柏木五ノ一〇一二
岩田　一	四四	中野區上高田一ノ一四七
小島茂雄	五七	王子區中十條一ノ三五ノ八
望月　茂	五五	豊島區巣鴨三ノ一
石井　忠	三九	中野區江古田一ノ二〇五二
田中　登	三六	淀橋區柏木五ノ一〇一二 本間方

主ナル會員又ハ隊員名	班別
渡邊邦正　田中義夫　薄井克己　伊藤平四郎　本橋猛夫　國領嘉一　山崎亀吉　鈴木茂男　杉山坂治郎　小澤澄人　熊岡清一　吉本忠義　市川　勇　中村源次　村田四郎　仲田　清　内田　寛	二

石山光四郎
森谷縫之助
大江英雄
白谷政治郎
山下幸弘
神田孝一

大東塾

事務所	澁谷區代々木西原町九五九
創立年月日	昭和十四年四月三日
電話番號	四谷 七五七

背後又ハ實際指導者

影山正治
井田磐楠
吉田益三
三浦義一

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
影山正治	三四	澁谷區代々木西原町九五九
長谷川幸男	二八	〃
玉井光一	三四	〃
櫻木國晴	三六	〃
野村辰夫	二八	〃
武藤包州	二四	〃
玉井雄二	三一	〃
影山英男	二三	〃
藤原仁	三一	〃

五十九 會員又ハ隊員名

平川勉
小川一夫
森山文雄
竹川哲生
芦田村弘
坪川満
古俣新平
東山利一
野村辰嗣
遠藤彪
登石清一

班別 二

下村 威	二六	〃	（出征中）
横堀謹一	二九	〃	
堀河 隆	二二	〃	（出征中）
鈴木正雄	二二	〃	
平野猛臣	一八	〃	
鬼山 保	二六	〃	

大島繁夫
以下出征中
高井微男
門馬 昇
森本光威
岩崎四郎
大原 傳
稲垣静雄

對支同志會

事務所	神田區駿河台三ノ三
創立年月日	昭和十二年七月十四日
電話番號	
背後又ハ實際指導者	岩田愛之助

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
伊藤清	五四	神田區駿河台三ノ三
松木良勝	四四	芝區西久保廣町一八
寺田稲次郎	四八	澁谷區代々木富ヶ谷一四三五

主ナル會員又ハ隊員名	
班別	二

大東亜青年同盟

事務所	赤坂區溜池町一九
電話番號	赤坂(48)五二八九
創立年月日	昭和十五年十月十五日
背後又ハ實際指導者	岩田愛之助

中心人物又ハ幹部	年齡	住所
松木良勝	四四	芝區西久保廣町一八
高原淺市	四一	大宮市仲町四ロ一四
日堂則義	四一	赤坂區新町五ノ一八
寺田稲次郎	四八	澁谷區代々木富ヶ谷一四三五
児玉信夫	五二	江戸川區小石町五ノ一八〇
高野忠藏	三九	目黒區中目黒一ノ七八一
柳町茂道	四三	足立區千住一ノ三五
平井義一	三一	麹町區九段四ノ二ノ四

會員又ハ隊員名	三十九
	加藤淺七
	手塚義美
	川崎末喜
	松下喜平
	高義伸介
	寺門朝治
班別	二

大日本皇道會

事務所	荒川區三河島町六ノ七五
創立年月日	大正十五年二月十一日
電話番號	下谷 七〇八

背後又ハ實際指導者　赤尾　敏

中心人物又ハ幹部	年齡	住所
赤尾　敏	四五	荒川區三河島町六ノ七五
河野康男	四二	〃
中村德太郎	三七	荒川區南千住町六ノ二三
吉浦延次郎	二八	荒川區三河島町六ノ七五
齋尾政治	三四	向島區寺島町六ノ一二五

主ナル會員又ハ隊員名

伊藤　薫
赤尾三郎
赤尾四郎
栗本茂幸
古賀慶三郎
李英介
安東博

班別　三

大日本赤誠會（八紘塾）

事務所	澁谷區穏田一ノ一二五
電話番號	青山二四三四
創立年月日	昭和十一年十月十七日

背後又ハ實際指導者
橋本欣五郎
建川美次

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
橋本欣五郎	五四	大森區馬込町東一ノ一四三七
雨谷菊夫	四〇	世田谷區經堂町二二八
橋本音之	五三	麻布區笄町六八
安達十六	六〇	世田谷區下馬二ノ四七
近藤義晴	四九	目黒區中目黒二ノ五三二
小川喜一	六一	杉並區和泉町一一〇
來間恭	四五	牛込區辨天町四八
高次昇	四四	赤坂區青山南町五ノ六七
橋野登	二九	鎌倉市材木座五一〇

主ナル會員又ハ隊員名
中西健司
篠田八十八
高部順治
鈴木重一
山口三藏
村上福松
淺見久夫
菅谷要三
倉骨武三郎
秋山一義
老川正治郎

成肯文雄	四一	中野區宮園通五ノ三二 東洋アパート内
大橋三郎	三三	大森區馬込西三ノ二七六七
關矢弘慈	三二	千葉縣東葛飾郡土村逆井
古澤元	三七	牛込區拂方町三
岡忠夫	三六	世田谷區太子堂九四

伊藤卯作
江口八郎
日高貞太郎
神谷卓
工藤清四郎
佐下橋源重郎
秋田淑夫
中村章之助

大日本勤皇同志會

事務所	赤坂區溜池町三〇 溜池會館内
創立年月日	昭和十七年十二月八日
電話番號	赤坂 六一三 六一四 八五一

背後又ハ實際指導者	中心人物又ハ幹部	年齢	住所
末次信正	藏田馨	四〇	山口縣厚狭郡吉部村東吉部一三一
下中彌三郎	近松久	三三	江戸川區小岩三ノ一四九二

主ナル會員又ハ隊員名	班別
門田省三 桑羽龍崇 杉田博 清野学道 近藤莫 菊地峯三郎 酒井三龍 山口忠一 常岡滝雄	六

大日本勤皇會

事務所	麹町區丸ノ内三ノ六 第二富岡館内
創立年月日	昭和十五年十一月二十日
電話番號	丸ノ内 四八八六

背後又ハ實際指導者	中心人物又ハ幹部	年齢	住所
田邊宗英 田邊治通 田邊七六 小林一三 河西豊太郎 廣瀬久忠 堀内良平 井出鐵藏 雨宮治良 田邊加多丸	田邊宗英	六三	四谷區若葉町一ノ一六
	林忠美	六五	淀橋區戸塚三ノ三七一
	武井定光	四四	中野區野方ノ五八四

主ナル會員又ハ隊員名	班別
矢崎[illegible] 畔高定行 相原甲斐 渡邊日辰 宮川定義 進藤[illegible]造 曽我裕平 幡野力 澤登正義 市川由勇 川端巳三郎	六

大亜細亜建設社

事務所	麹町區内幸町一ノ二東拓ビル内
創立年月日	昭和八年四月
電話番號	銀座 二四一七

背後又ハ實際指導者

笠木良明
金崎賢
河相達夫
天野辰夫
江口定條
稲葉準造
石川清浦
伊藤武雄
池田組弘
磐井文雄

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
笠木良明	五〇	世田谷區代田一ノ九八六
高村光治	五一	中野區城山町一二
河飯捨藏	五〇	小石川區水道端二ノ六四
向井定利	三四	世田谷區世田谷二ノ一二九二
泉光昭	三九	四谷區花園町八七

主ナル會員又ハ隊員名	班別
多賀幸吉、清水修、飯田一彦、田本達雄、松野清美、橘高章、廣渡和生、藤田瑛、奈良岡武敏、田邊四郎、河野信之助	七

川端努次
丹羽平吉
馬渕保郎
上田安一
杉山茂
福岡正弥
池田保

大日本一新會

事務所	麹町區内幸町二ノ二 商興ビル内
創立年月日	昭和十七年六月二十八日
電話番號	銀座 六〇九七

背後又ハ實際指導者

吉田益三
頭山滿
小林順一郎
廣田弘毅
村田省三
大藏公望

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
吉田益三	四九	大阪市天王寺區勝山通一ノ一七六
影山正治	三四	澁谷區代々木西原町九五九
白井爲雄	三八	澁谷區羽澤町三五
船生利重	四二	豐島區堀之内一七四
獅野巖	五一	兵庫縣西宮市今津曙町九九
千葉友次郎	三七	麻布區霞町二一
河上利治	三七	京都市伏見區京町北八丁目
星井眞澄	三三	大阪市住吉區今林町四八六
小池銀次郎	五五	茨城縣北相馬郡布川町

主ナル會員又ハ隊員名	
	登石清
	玉井暁城
	鮎澤俊男
	大串初太郎
	齋藤兼輔
	鬼山保
	糸井弘
	中村金次郎
	小川隆一郎
	小林秀信
	糸田實
	二宮宣夫
班別	五

長谷川幸男	一八	澁谷區代々木西原町九五九 大東塾内
高瀬道善	三五	埼玉縣 南埼玉郡岩槻町出口
柴山満	五〇	大阪府北河内郡 守口町土居二八〇
小部英男	四二	大阪市 旭區新森小路中三ノ四一
太田岩穗	四〇	大阪市 旭區大宮町六ノ二〇
難波澄人		京都市 伏見區深草錦森町一〇

淺野巖
澤田弥一郎
江口仙三
福島三郎
許斐德次郎
野村辰夫
足立一雄
小野山松太郎

大日本同志會

事務所	芝區高輪南町二八
創立年月日	昭和十一年十二月一日
電話番號	高輪 三二五〇

背後又ハ實際指導者	松本德明

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
松本德明	四七	橫濱市中區山手一三二
杉山謙治	四七	淀橋區西大久保二ノ一五六
池田林儀	五二	本郷區丸山福山町一六
藤澤親雄	五二	世田谷區成城町八九二
黒田礼二	五四	大森區大森山王一ノ二七二六
野津謙	四四	麻布區笄町一五九
谷川昇	四八	赤坂區青山南町五ノ四五
佐藤鐵馬	五三	大阪府堺市三國ケ丘町四九六

主ナル會員又ハ隊員名	
班別	五

則天塾

事務所	本所區緑町二ノ八
創立年月日	昭和十六年二月十一日
電話番號	自宅 赤坂二四一〇 事務所 本所 七九七五

背後又ハ實際指導者

根本瑛

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
根本瑛	五八	麻布區笄町一ノ五
大久保満彦	三八	小石川區茗荷谷町一九
田村太郎	四六	四谷區南伊賀町四三
糟谷猪三	三六	神戸市神戸區中山手通一ノ四六ノ二五
松岡久雄	四五	杉並區阿佐谷六ノ二二四
長島堅	三七	茨城縣真壁郡雨引村
小須田命茂	三〇	長野縣南佐久郡切原村上小田切九〇五

主ナル會員又ハ隊員名

班別

やまとむすび本部

事務所	四谷區三榮町一〇
電話番號	四谷 五六二一
創立年月日	昭和十五年七月二十日
背後又ハ實際指導者	佐々井一晁 佐々井信太郎 木村尚一

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
佐々井一晁	六一	四谷區三榮町一〇
神田兵三	四五	杉並區馬橋二ノ二四五
野本實（石渡山達コト）	五〇	府下小金井町小金井新田
半谷玉三	五三	中野區昭和通リ三ノ三
田中清史		四谷區三榮町一〇

三十九會員又ハ隊員名	班別
宇波太三郎 宇留島作市 内村唯雄 跡部晁 齊藤東吉 末吉國弘 磯祐知 足木正一 中濱宏宣 松室尊憲	七

皇道社

事務所	小石川區駕籠町二三七
電話番號	大塚一〇三七
創立年月日	昭和十五年八月二十九日

主ナル會員又ハ隊員名	班別
國井善弥 小谷文濟 伊藤廣 伊藤猷明 伊藤巖 山口五郎 高橋昊 松浦辰己	二

背後又ハ實際指導者	中心人物又ハ幹部	年齢	住所
今泉定助	今泉定助	八一	小石川區駕籠町二三七
	山岡萬之助	六八	澁谷區神泉町二〇
	簡牛凡夫	五〇	牛込區南町七
	守屋榮夫	六〇	瀧野川區西ヶ原七四
	刈谷省三	四九	瀧野川區瀧野川町二七一

國際反共聯盟

事務所	芝區琴平町一 不二ビル内
創立年月日	昭和十二年四月十二日
電話番號	芝 四一一八 一四二三
背後又ハ實際指導者	平沼騏一郎

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
井田磐楠	六三	麹町區永田町二ノ六
岩田愛之助	五四	芝區白金台町一ノ八一
菊池武夫	六九	淀橋區百人町三ノ一八二
井上清純	六五	品川區大井出石町五ノ一三二
池田弘	五一	神奈川縣鎌倉小町一三六
太田耕造	五五	小石川區関口台町五七
入江種矩	六二	四谷區永住町二

主ナル會員又ハ隊員名	班別
	二

皇道翼賛青年聯盟

事務所	赤坂區田町七ノ三
創立年月日	昭和十五年八月
電話番號	赤坂二〇六九
首腦者又ハ實際指導者	鈴木五一

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
鈴木五一	四二	本郷區台町三九 至誠寮
毛呂清驤	三一	赤坂區田町七ノ三
溝口勇夫	三五	品川區大井伊藤町五七二九
吉田義雄	三五	杉並區阿佐ヶ谷一丁七三二
三上卓	三九	澁谷區代々木山谷四五七
近松久司	三二	江戸川區小岩町三ノ一四九二
大和正俊	三二	福岡縣宗像郡吉武村字吉田
小島玄之	三六	世田谷區代田一ノ一〇〇五
町田益一	四〇	荏原區中延町八〇二 中延莊

會員又ハ隊員名	三十九
班別	三

奥戸足百	四〇	世田谷區野澤町二ノ一七三
長谷川 峻	三二	淀橋區西大久保町三ノ四五
大橋三郎	三三	大森區馬込町三ノ二七六七
雨谷菊夫	四〇	世田谷區経堂町二八

古事記研究會

事務所	京橋區西銀座八ノ九 旧九洲ビル内
創立年月日	昭和十二年七月二十七日
電話番號	銀座二五七

背後又ハ實際指導者	中心人物又ハ幹部	年齢	住所
小島茂雄	岩田一	四四	中野區上高田一ノ一四七
本間憲一郎	小島茂雄	五七	王子區中十條一ノ二五ノ八
	峯岸四平	五一	芝區巴町四七
	中島保雄	四四	千葉縣東葛飾郡柏町新田

主ナル會員又ハ隊員名	班別

二

三〇

皇國學園

事務所	澁谷區千駄ヶ谷五ノ八六六
創立年月日	昭和十五年十二月二十四日
電話番號	
指導者又ハ實際指導者	鹿子木員信

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
鹿子木員信	六〇	鎌倉市浄明寺六四七
多田武郎	四四	澁谷區千駄ヶ谷五ノ八六六
木下允明	三二	板橋區大谷口町一〇四一
有馬康之	三二	澁谷區千駄ヶ谷二ノ四一九

主ナル會員又ハ隊員名	班別
松田嶺介	
木下祝夫	
中里幸春	
和田喜三郎	
有川亨	二
高山正	
徳山正人	
中野實一	
林文彦	
田中順吉	

皇國同志會

事務所	麹町區内幸町二ノ二 富國別館
創立年月日	昭和十七年十二月二十三日
電話番號	銀座 六二五一

背後又ハ實際指導者
松永栈
白鳥敏夫

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
松永栈	五三	杉並區荻窪二ノ一〇〇
小林順一郎	六四	世田谷區深澤町二ノ一二五九
下中彌三郎	六六	中野區鷺宮一ノ二二九

主ナル會員又ハ隊員名	班別
長井津	
藤岡好春	
吉田光長	
小島茂雄	
三宮千春	六
長澤九一郎	
稿瑞比古	
藤巻正之	
八鍬功	
加藤一夫	

國粹同盟

事務所　本郷區駒込蓬萊町六六

創立年月日　昭和六年三月十日

電話番號　駒込二九一四　赤坂二九一六

首領又ハ實際指導者
笹川良一
白鳥敏夫

中心人物又ハ幹部	年齢	住所
笹川良一	四五	本郷區駒込蓬萊町六六
吉松正勝	四〇	〃
兒玉譽士夫	三三	目黒區柿ノ木坂一三八
藤吉男	三八	本郷區駒込淺嘉町七〇
极倉彌三郎	四二	本郷區駒込淺嘉町六三
新田贇平	三六	本郷區駒込淺嘉町七〇
飯島與志雄	三三	淀橋區下落合三ノ一五〇三
菊地東一郎	三九	大阪府大正區大正通リ四ノ二四 丹田重雄方
丹田重雄	三八	〃

會員又ハ隊員名
佐藤榮志
片桐勝昌
新原太十郎
瀨崎安雄
小野幸次郎
前田博
大坪甫水
信岡博
奥田有弘
渡森金平
木藤三次

班別　六

藤原常吉

三九

大阪府東区内本町橋詰町一四

川瀬豊一

太田博志

皇道會

事務所	澁谷區千駄ヶ谷一ノ三五九
電話番號	青山 一八九二
創立年月日	大正九年十月五日
中心人物又ハ幹部	矢島芳郎
年齢	四九
住所	麹町區九段一ノ三
主ナル會員又ハ隊員名	池田啟一 漆谷忠助 前山駒見
班別	六
背後又ハ實際指導者	両角三郎 今里準太郎